

1. 調査報告概要表

作成日 2008年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	"0175400472
法人名	有限会社 まつお
事業所名	グループホーム はな 佐呂間
所在地	北海道常呂郡佐呂間町字宮前162-13 (電話) 01587-2-1787

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年12月11日

【情報提供票より】(20年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	5 人
常勤換算	11.7 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	14,000~17,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	14 名	男性	7 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小田医院・谷津歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはな佐呂間は、佐呂間町中心部より南部に位置し住宅地の中にあります。広大な敷地の一角にホームがあり夏場はひまわりに囲まれた開放感のある建物は洋風の2階建て2ユニットになっています。南側に向けた大きな窓から陽が入り明るい雰囲気のリビングには、ボランティアのカラオケやフラダンスが行なわれています。職員も地元の方が多く、利用者のペースに合わせ笑顔で接する事を心掛けています。利用者と一緒に畑で栽培し収穫したきゅうり・芋・カボチャ・茄子・トマト・とうきび等を調理したりと役割を持った生活を心掛け、安心して暮らせる支援をしています。開設して3年目に入り、地域との協力をどの様に取り組んでいくかが今後の検討課題ですが、理念にある「安心して共に過ごせる思いやりと笑顔の輪」を軸に取り組んでいます。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による課題については、管理者と職員が会議の中で話し合い、改善点にも前向きに取り組んでいる姿勢が見られます。家族会を設立して行事参加時に意見要望を言える関係が築かれています。災害時に地域住民の協力体制が築かれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価への取り組みは、職員が評価を取組む管理者がその後職員と共に話し合いの後取りまとめ、利用者・家族の意見・要望を謙虚に検討し、地域の人々に理解・支援されるホーム創りを目指しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の理解や支援を得る取り組みとしての運営推進会議は、行政に相談をしながら準備を進めていますがスケジュールが合わず開催されておりません。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置していますが利用はなく、職員は家族の面会時に利用者の様子を伝えたり家族の要望を聞入れる体制が出来ています。年3回のホーム便りと個人別の便りを発行し情報を公開する事で、より良い家族との関係を築く取り組みが見られます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの隣接地に管理者の住居があり、そこが町内会に加入しており夏祭りや敬老会に参加しています。日課にもなっている道路清掃奉仕やホームの行事、菊祭りや芸能発表会見学、大正琴・カラオケ・フラダンス等のボランティアの受入れもしています。佐呂間高校より体験実習の受入れも行なわれています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念とは別に職員と共に検討した理念として「安心して共に過ごせる思いやりと笑顔の和」が事務室やリビングに掲げてあり、利用者との関係を継続し信頼関係を築ける様、向上に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見直しをした理念は事務室やリビングに見やすい位置に掲示されていて、職員と利用者は毎朝体操時に復唱しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方からの野菜の差し入れや佐呂間高校の体験実習、大正琴・カラオケやフラダンス・ゴスペル等のボランティアの受け入れをしています。町内の複数ある老人クラブの見学会も受入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を受け、管理者・職員全員がサービスの質の向上に活かす為取り組み、改善している姿勢が見られます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催するメンバーとして、町介護保険課・包括支援センター担当者・民生委員・町内会役員・家族と管理者・職員らで準備を進めています。	○	地域の関わりと協力体制を築く為にも、定期的な開催をされる様望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課・健康推進・包括支援センター等の役場や保健師・消防署と連携し取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会時に、利用者の健康状態や日々の出来事について報告しており、突発的な病気や事故についても受診結果報告を行っています。年3回季刊誌として、はな便りと個人別の便りを手渡しや郵送し利用者の状況を報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置してあります。家族からの不満・苦情を受け付ける窓口を掲示しており、随時受付けて対応出来る体制があります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は1・2階ユニットを自由に入出りして馴染みの関係を築き、離職した職員も面会に来る等配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を研修に参加させる為ローテーションを考慮して取り組んでいます。外部研修の資料をいつでも閲覧できるようになっています。	○	研修への参加は、定期的に行なわれておらず、今後職員に外部研修を受ける機会の確保を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、管理者は研修会等で交流しています。系列のグループホームへ見学にも行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して支援を受けられる様家族から生活暦や好み等の情報を集め、見学などをしてホームに馴染める支援が来ています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からおやつの作り方を学んだり、利用者が進んで茶碗洗い・掃除・洗濯の手伝いをしています。日常生活の中でコミュニケーションや表情から利用者の感情を理解し、喜怒哀楽を表現出来る関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがより良い生活を築く為、利用者の意向を把握したり家族からも情報を提供してもらい支援が出来る体制があります。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせる様に家族の意見を踏まえ、毎月ミーティングで検討してケアに反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行っています。また状況に応じて毎月でも利用者の状況や家族の意向に沿って評価し、計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	前回の外部評価の改善として買物やドライブなどの支援を増やしたり、かかりつけ医の受診支援・散歩や美容室への外出支援等利用者の支援を行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望された病院への受診を行なっています。急変時は、かかりつけの病院に連絡し搬送を行なっています。厚生病院や歯科医院が訪問診療支援を行なっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前ホームでターミナルケアを行なった経過があり、ホーム内での終末期のあり方について、家族・医師と共に取組まれている体制があります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けや見守りに気をつけてゆっくりはっきりと聞き取りやすい話し方を心掛けています。個人情報保護を理解しており介護記録の記入や保管は、事務室で行い取り扱いについても注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを大切に支援を行う様心掛けています。また職員が一人ひとりの状況を充分把握して支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように嗜好を把握し職員が献立を考えています。家族や近所からの差し入れの野菜や山菜類を捌いたり、ホームの畑で取れた野菜も利用しています。食事の配膳や後片付けは利用者自ら積極的に手伝っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっていますが利用者の希望や状態により、週3回以上いつでも入れる支援を行っています。入浴をしたがらない利用者については様子を見ながら声掛けして支援をしています。シャワー浴や足湯の希望にも対応しています。脱衣室に音楽が流れる配慮がされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除は全員で役割を持って携わり、畑の世話や収穫・家事仕事等、一人ひとりの生活歴から家事や趣味の役割を持って充実した生活が出来る様支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買物や散歩等の外出支援を行っています。ドライブを兼ねて車で湖や公園を見に行く事もしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しますが日中は玄関に鍵は掛けていません。居室の戸には鍵は付いていますが、本人の了解を得て鍵を開ける様声掛けしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として年2回の避難・消火・通報訓練を行なっています。緊急時の連絡網として隣接する民生委員や住民の協力体制が出来ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が一人ひとりの生活記録を把握し共有しています。一覧表に水分の摂取(概ね目標値1000cc)や食事の摂取量を記入、情報を共有し支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下には誕生会や行事での写真の掲示や手作りの作品など季節感を感じる工夫を取入れています。トイレなどの表示も大きく見やすい位置に掲示しています。不快な音や光がない配慮もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前に利用者や家族に説明がされており今まで使用していた布団・タンス・テーブル・イス・写真等を持ち込み自分らしい空間で生活をしています。		